

12月出雲市議会閉会（会期：11月30日～12月18日）

一般会計補正予算7億6,000万円など46議案可決

これまでの
コロナに打ち克つ
地域緊急経済対策
(一般会計)

第1弾～第5弾
計 226億円
第6弾(今回)

2.4億円

合計 228.4億円

十二月議会では、一般会計七億六千万円、国民健康保険事業特別会計三千五百万円、後期高齢者医療事業特別会計八千二百二十万円、介護保険事業特別会計三億二百八十万円の補正予算が可決されました。

今回の補正予算(一般会計)には、新型コロナウイルス感染症緊急地域経済対策第六弾として二億四千万円、生活保護費八千万円、災害防除事業四千七百万円、新体育館整備費六千万円などが含まれています。

予算以外では、議員・特別職・一般職職員の前末手当を減額する条例、公の施設の指定管理者の指定十一件、出雲市議会基本条例の一部を改正する条例などを可決しました。

また請願一件を採択し、県に対し、「現行少人数学級制度縮小計画の凍結を求める意見書」を提出することに決定しました。陳情九件については、「松奇下浜線(一工区)道路良工事早期着手に関する陳情」、「大社コミュニティセンターの新築を求める陳情」、「荒木コミュニティセンター階段昇降機設置に関する陳情」を採択、「子ども医療費の無償化に関する陳情」、「インフルエンザ予防接種費用の助成に関する陳情」、「夜間・休日診療の体制の充実に関する陳情」、「出雲市物品の売買等入札参加者選定要綱に関する陳情」、「保育士の労働環境の改善に関する陳情」を趣旨採択、「農地転用に関する陳情」を不採択と決定しました。

補正予算のうち、

新型コロナウイルス感染症緊急地域経済対策 第6弾 内訳

事業名	補正予算額(円)	事業の概要
各種指定管理施設 管理運営費	9,980万 国(9,980万)	感染症拡大の影響による指定管理施設の収支不足に係る指定管理料の追加 【対象施設】 39 施設 【対象期間】 令和2年4月から9月分
民間譲渡施設 特別支援給付金事業	500万 国(500万)	10年以上事業継続することを条件に民間に譲渡を行った施設のうち、感染症の影響により収入が著しく減少した施設に対する特別支援給付金の支給 【支給額】 1施設につき100万円 【対象施設】 令和2年4月から9月までで、収入が前年同月比50%以上減少した月が2か月以上、または30%以上減少した月が3か月以上ある施設
市長・市議会議員選挙費	330万 国(330万)	出雲市長選挙及び出雲市議会議員選挙で使用する感染症対策物品の購入 【購入物品】 フェイスシールド、除菌シート、消毒液、筆記具等 【使用場所】 投票所(期日前投票所を含む)、開票所
地域生活支援事業等 受入体制強化事業	860万 国(645万) 県(215万)	地域生活支援事業等を実施している障がい福祉サービス提供事業者が、感染拡大防止及び衛生管理体制強化を行う経費を補助 【対象事業者数・補助上限額】 1事業実施 35事業者 上限 20万円、 2事業実施 4事業者 上限 30万円 3事業実施 1事業者 上限 40万円
私立認可保育所 特別事業補助	2,300万 国(1,000万) 県【国】(1,300万)	私立認可保育所で実施する延長保育事業及び一時預かり事業等について、感染症対策を実施するために必要となる保健衛生用品等の購入費補助 【対象物品】 空気清浄機、マスク等 【補助金額】 1事業につき1施設当たり上限 100万円
生活資金支援 給付金事業	2,600万 国(2,600万)	休業等により生活資金に困窮し、出雲市社会福祉協議会等の緊急小口資金等の特例貸付を受けている世帯に対する生活支援給付金の追加 【給付額】 貸付額の1/2 【上限額】 5万円(最長3か月) 【対象者】 令和2年12月末までに特例貸付を受給した世帯(対象期間3か月延長) 【補正後予算額】 8,000万円
校舎リフレッシュ事業	2億260万 国(1億1,438万8千) 市債(6,910万)	感染症対策として、小・中学校のトイレの様式化整備を実施 【対象学校数(整備数)・事業費】 小学校 24校(129か所) 1億2,390万円 中学校 13校(82か所) 7,870万円

これまで 緊急経済対策 第2弾 1,800万
同 第4弾 3,600万

●今回の一般質問では、「地域力向上を目指して」というテーマで、二市四町で合併した平成十七年三月末と令和二年十月末の人口比較、令和二年四月一日現在の自治会加入率のデータをもとに地図上に着色したパネルを示し、いくつかの提案を含め、執行部の見解をいただきました。

《板垣成二の質問要旨》

国立社会保障人口問題研究所が推計した二十二年の出雲市の人口は、辛うじて十六万人をキープする程度でした。平成十七年三月末時点では、斐川町も含め十七万六千二百九十五人でしたが、令和二年十月末の人口は十七万四千六百六十三人で、一%減少したものの十七万人台をキープしています。全国的な人口減少の中にあつては、大いに健闘しているといえます。

しかし、四十三のコミセン単位で見れば、同時進行的に増加地域と減少地域に二極化しています。平成十七年三月末と令和二年十月末で比較すると増加したのは十二の地域で、三十一の地域で減少しています。

人口減少地域では、減少率三十%以上の地域が六つ、二十%台の地域が六つ、十%台の地域が十二、五%以上十%未満の地域が一つ、五%未満の地域が六つあります。

人口減少地域は一部の周辺地域ではなく、また、中山間地というくくりでは説明できない広範囲の地域に広がっています。人口減少は少子高齢化と一体となっており、独居世帯や高齢者世帯が増加し、地域の維持活動が困難になり、地域の存続に関わる由々しき事態が生じています。

一方、令和二年四月一日現在の自治会加入率は、九十%台が五地域、八十%台が十五地域、七十%台が七地域、六十%台が八地域、五十%台が一地域、四十%台が五地域、三十%台が二地域あります。

流入人口が多い地域ほど自治会加入率が低下している、加入率の低い地域では、各種イベント、共同作業や種々の負担金などに不公平感があり、地域運営に大変なご苦労があると思っております。

令和三年度には、次期出雲市総合振興計画を策定する予定であり、これらの地域課題解決に向け正面から取り組む必要があります。

「うみ・やま(中山間地域)応援センター」体制を拡充し、旧市町単位での配置から、地域の実情を勘案しながら、「コミセン」単位で配置することや、「元氣！やる気！地域応援補助金」制度の更なる予算措置も有効な手段になると考えます。

自治会加入率については、これまでも様ざまな議論がありました。自治会加入の有無にかかわらず、負担的なものを徴収し、自治会加入者の負担を減らしてはどうかという趣旨の提案もありました。発想を転換し、抜本的な対策が必要です。執行部の見解を伺います。

《総合政策部長の答弁要旨》

出雲市は総人口を維持しながらも、市内の移住等により人口減少地域と、市街地の人口増加地域が形成されています。両地域とも、地域自治組織の維持・運営に大きな支障があり、地域活動の衰退につながることから、市として重要な行政課題に位置付けています。

人口減少が著しい山間部や海岸部対策として、これまで過疎債や辺地債を活用した道路等のインフラ整備や、農業や林業の振興事業における優遇措置等の支援のほか、平田、佐田、多伎及び大社行政センターに「うみ・やま(中山間地域)応援センター」の支部を設置し、相談・支援業務を行ってきました。「うみ・やま(中山間地域)応援センター」体制の拡充については、今後必要に応じ検討します。

「元氣！やる気！地域応援補助金」制度については、三年に一度の補助金見直しにあわせ、検討します。

自治会加入促進については、市職員の専門職の設置や、外部団体からのアドバイザーを受けられるほか、固定概念にこだわらず、新たな取り組みを検討します。

これらの課題については、新たに策定する出雲市総合振興計画の中で、重点的に取り上げていく必要があると考えており、今後検討していきます。

令和3年4月1日から 子ども医療費助成が 変わります。

島根県の医療費助成制度の対象年齢がこれまでの「未就学児」から「小学校6年生まで」に拡大されます。
県の制度にあわせ、出雲市でも所得要件を撤廃し、すべての小学生の入院及び入院外(通院・薬局等)を対象に加えるとともに、市独自にすべての中学生の入院を対象とすることになりました。また、自己負担額を見直すことになりました。

区分	入院外	入院
小学生	1割負担 限度額 1,000 円/月 薬局等は無料	1割負担 限度額 2,000 円/月
中学生	3割負担	1割負担 限度額 2,000 円/月

※ 薬局等とは、柔道整復施術所、はり・きゅう及びあんま・マッサージ術所、治療用装具製作所並びに訪問看護ステーションをいいます

板垣成二後援会
〒 693-0503
出雲市佐田町須佐 743-9

《板垣成二連絡先》
いつでもご連絡ください。
携帯 090 2293 7869
メール info@itagaki-seiji.jp

《編集後記》
平成三年度は出雲市にとって再出発の年になります。
●新型コロナウイルスの感染予防に万全の対策をとり、皆さんの実情を受け止め、しっかりとサポートするとともに、コロナ禍における新たな社会経済活動を模索していく必要があります。
●出雲市の今後十年間のまちづくりの指針となる出雲市総合振興計画が策定される予定です。
●折しも四月には新たな出雲市の舵取り役を決定する市長選挙と市議会議員選挙が実施されます。皆さまが市政に参画される貴重な機会です。少しでも投票率があがるよう願っています。
今年の節分祭は二月二日、例年、佐田町の須佐神社では境内にやぐらを組んで福豆・福餅まきがありますが、今年は残念ながら中止です。今年一年、健康で活躍いただきませう、また皆さまのご多幸を心からお祈りしています。(板垣記)